



# THE SHINKANSEN MAIL NEWS



JR東日本輸送サービス労働組合  
新幹線地方本部



2025,03,16 No. 035

申  
6  
号

## 首都圏新幹線信号通信技術センター上野新幹線メンテナンスセンター における宿直体制の見直しに関する申し入れ 3/13 団体交渉開催

### 1. 通年で実施してきた宿直を廃止する目的と根拠を明らかにすること。

(回答) これまで実施してきた設備強化により、宿直で対応すべき設備故障は減少していることから、社員の働き方改革を促進するために通年で実施してきた宿直を廃止する考えである。

- 組合
  - ✓ 実施してきた設備強化の内容および宿直が対応した件数を具体的に示すこと。
  - ✓ 上野新幹線メンテナンスセンターに組織が改組されて以降も、少ない要員で宿直を実施しており社員から様々な声があがっている。
  - ✓ 回答にある施策の目的と根拠を確認。
- 会社
  - 設備強化として、「2015年度から転てつ器モニタの導入」「ボンド類の銅テルミット化」「軌道回路の防護管挿入」「今後も設備の老取施策の確実な実施」などである。装置故障の発生件数も2010年度25件から2023年度14件と減少し、宿直の対応件数については2008年10月から13件であり1年に1回対応するかしないかの実績である。
  - 社員の声を元に働き方改革促進の観点から通年の宿直体制を見直すこととした。

### 2. 勤務時間外における異常時対応の考え方を明らかにし、設備故障低減に向けた具体策や必要な予算を確保し、輸送障害に直結する設備の修繕や検査を充実させること。

(回答) 異常時については適切に対応を行っているところである。なお、引き続き設備強化に取り組んでいく考えである。

- 組合
  - ✓ 宿直の見直しに伴い異常時対応の考え方に変更はあるのか？また、これまで日曜日～木曜日は必ず宿直か夜勤者がいたが、勤務作成にあたって制限はあるのか？
  - ✓ 設備故障低減に向けた具体策を示し、必要な予算は確保すべきだ。
  - ✓ 宿直見直しに伴い指令での試験転換の必要性和効果についてはどのように考えているのか？また、業務マニュアルに記載されている呼び出し基準に変更はあるのか？
  - ✓ 宿直の見直しで足ロsgが発生し、異常時対応力が低下する見直しではあってはならない！
- 会社
  - 異常時対応の基本は「呼び出し」となる。また勤務作成にあたっても制約をかける考えはない。
  - SAINT IIや列車無線などの老取を確実に実施していく。また、転てつ器の検査周期の見直しをパートナー会社の意見も聞きながら検討し、必要な予算は確保していく考えである。
  - 指令での試験転換については検討中であり、指令と丁寧に議論していく。呼び出し基準については経緯もあり、見直しが必要も含め検討していく。
  - 速報性は失われるが設備故障のリスクは実績からも少なく、設備強化を実施していくことで設備故障も少なく、設備故障が発生した場合は技術センター総体で呼び出しで対応していく考えである。

### 3. 首都圏新幹線信号通信技術センター上野新幹線メンテナンスセンターにおける通年の宿直体制の見直しでは要員削減を行わないこと。

(回答) 引き続き、業務に必要な要員は確保していく考えである。

◆ **宿直見直しに伴う、要員削減は行わない！**

# 確認

### 4. 多客期等の宿直については、働き方改革の促進に伴い勤務を職場実態に合わせ、柔軟に設定し運用できるようにすること。

(回答) 勤務の取扱いについては、就業規則等に則り取り扱うこととなる。

- 組合
  - ✓ 宿直見直しの目的が「社員の働き方改革の促進」であるならば、職場実態や社員の声を元に勤務は柔軟に設定し運用すべきだ！宿直は役割があり手当も関係してくる。一方、新幹線のダイヤに生活や出退勤が縛られる職場もあるので、現場社員の声を聞いて勤務は運用すべきだ！
- 会社
  - 基本はこれまで同様に「宿直」で考えているが、社員の意見・要望で宿直相当のフレックスパターンの方が良いという意見があれば適用しても問題無い。また、同じ職場でフレックス適用の社員や適用除外の社員が混同していても問題は無い。勤務については柔軟に対応していく。

**団体交渉で確認したことをもとに今後も新幹線の安全と高い輸送品質を確保していこう！**